

- 鷺見和紀郎「brilliant corners」
- 北島敬三「UNTITLED RECORDS」開催
- BankART 妻有「桐山の家」2022年の夏
- 都市デザイン横浜展開催
- Under 35 2022
- AIR 2022 オープンスタジオレポート

BankART NEWS Vol. 25

発行：BankART1929
2022年8月1日発行

鷺見和紀郎「brilliant corners」 北島敬三「UNTITLED RECORDS」開催

2022年8月26日 [金]～9月25日 [日]
鷺見和紀郎展@ BankART KAIKO (馬車道)

北島敬三展@ BankART Station (新高島)

[料金] 両展覧会それぞれ：一般 ¥800

カタログセット券：鷺見和紀郎展 ¥2,000、北島敬三展 ¥3,800

※中学生以下及び、障がい者手帳お持ちの方と付き添い1名は無料

いずれかの展覧会チケット半券提示で、入場料200円引き

3月16日に急逝したBankART元代表の池田修が最後に企画した3つの個展のうちの2つが、BankART StationとBankART KAIKOで同時期に開催される。今年3月に「土門拳賞」を受賞したばかりの写真家・北島敬三氏は、受賞理由となった写真集『UNTITLED RECORDS』から43点の写真をBankART Stationに展示。さらに同シリーズから選りすぐった167点を収録した写真集を、展覧会にあわせてBankART1929から刊行する。また50mの通路ギャラリーでは過去のストリートスナップ写真の大型スライドショーも展開する。BankART KAIKOでは彫刻家・鷺見和紀郎氏の新旧作をおりませた「brilliant corners」展を開催。氏がこれまでに手がけたブロンズ、石膏、ワックス、などの質感を、立体、レリーフ、平面などさまざまな形で体感することができる。併せて刊行するカタログも必携。どちらも見応えのある必見の展覧会、この機会にお見逃しなく。

brilliant corners



鷺見和紀郎展 SUMI WAKIRO

26 August — 25 September, 2022
BankART KAIKO

UNTITLED RECORDS KEIZO KITAJIMA



26 August — 25 September, 2022
BankART Station

BankART 妻有「桐山の家」 2022年の夏

会期 | 2022年7月30日 [土]～9月4日 [日] (火・水曜日は休み)

時間 | 10:00～17:00

住所 | 新潟県十日町市桐山86 (大地の芸術祭作品番号 D325)

今年も「越後妻有 大地の芸術祭」開催に伴い、7月30日～9月4日の間、「BankART 妻有」をオープンします。BankART 妻有は、地域の人に譲っていただいた古い農家を2006年にみかんぐみや神奈川大学曾我部研究室とBankARTが協働し、改造したものです。その後も多くのアーティストが関わり、障子や呼び鈴、手すりや屋根裏部屋、床の間や寝室等、家の様々な部位が作品によって構成されてきました。またお風呂やトイレ、小さなプール、Wi-fiも完備しており、宿泊することも可能です。芸術祭会期中は、BankARTのスタッフが居住し、お茶とかき氷を用意して、皆様をお待ちしております。



参加作家 | みかんぐみ、神奈川大学曾我部研究室、丸山純子、松本秋則、村田真、PHスタジオ、野老朝雄、ヤング荘、原口典之、田中信太郎、開発好明、白井美穂、吉川陽一郎、磯崎道佳、進藤環、東野哲史、池田拓馬、トラフ、スタジオニブロール、和田みつひと、木村崇人、山下拓也、中原浩大、熊澤桂子、浅井裕介、自転車部/KOSUGE1-16、柳幸典、岡崎乾二郎
2022年滞在作家 | 山本愛子、片岡純也 + 岩竹理恵

BankART 出版より

都市デザイン横浜 個性と魅力あるまちをつくる

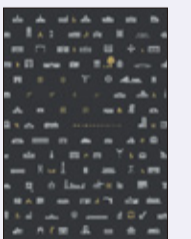
「都市デザイン横浜」展にあわせて刊行されたカタログ。豊富な図版で50年におよぶ横浜の都市デザインの活動が詳細にひもとかれている。好評につき第二刷刊行中!

A4判/352ページ ¥2,727+税 (税込 ¥3,000)

まちづくり主義のススメ ～横浜の実践から学んだこと～

横浜の都市計画に携わり、水道局長など地方公務員を40年に渡り経験した著者・土井一成が、BankARTスクール「まちづくり都市横浜を読む」の講義内容を中心に、横浜の「まちづくり」について考察した。

四六判/320ページ ¥1,363+税 (税込 ¥1,500)



越後妻有大地の芸術祭 2022 企画展「大地のコレクション展2022」@ 清津倉庫美術館

会期：2022.07.30 [土]～09.04 [日] →木・金・土・日・月 開館

09.10 [土]～11.13 [日] →土日祝 開館

時間：10:00～17:00 (10月、11月は16:00まで)

小学校をリニューアルした清津倉庫美術館で、これまでの大地の芸術祭参加作家の多様な作品展開を紹介する展覧会が開催されます。BankART 妻有からは、池田 修元代表が、生前この展覧会のためにセレクトした岡崎乾二郎、柳幸典、中原浩大の大型立体作品を特別出展します。展示作品は一部を除き販売しており、どなたでもご購入することが可能ということで、芸術祭のなかでも作品を見る目が少し変わるかもしれません。

問い合わせ：大地の芸術祭の里総合案内所 (NPO 法人越後妻有里山協働機構) / Tel: 025-761-7749

「都市デザイン横浜展 個性と魅力あるまちをつくる」開催

3/5 - 29 (好評につき、~4/24まで会期延長) @ BankART KAIKO

横浜市都市デザイン室の展覧会「都市デザイン 横浜展」が始まった。50年間の横浜のまちづくりのアーカイブをこの600平米のカイコのスペースで見せるのは、正直にいうとちょっと無理があるが、展覧会としては、素直な理解しやすいシンプルな構成になっている。会場構成は本でいうところの扉(あるいはインデックス)でレイアウトされ、複雑で専門的になりすぎるところをうまく避け、一般の人にもすんなりと横浜が歩んできた道を、大らかに感じさせてくれる展示になっている。また、空間的に足りない要素やエレメントのフォローとして、大判の非常に美しい映像がゆったりと投げられているのもすばらしい配慮だ。全体の印象として、強いていえば、もう少し手作業の部分が欲しかったのと、ディテールにフォーカスした展示もあってもよかったと思う。

同時に発行した350頁に及ぶ本は、写真図版を多用した詳細な構成になっている。50年間のぶれない横浜の「まちづくり」の多様性、デザイン性が、十分に伝わってくる緻密な構成になっている。入場チケット付きで3,000円というリーズナブルな価格設定は破格である。(一家に一冊は所有してほしい)

いずれにせよ、馬車道駅のオプション展示も含めて、これまで多くの人々が関わりながら紆余曲折しながら歩んできた横浜のまちを、展覧会や出版物で紹介するのは随分遅くなってしまったが、世に問うことができるとてもよかったと思う。(ブログより)



Under 35 2022 開催

4/28- 7/18 @ BankART KAIKO

今年は、池田修、福住廉、村田真の3氏の審査によって選出された8名の作家が、2名ずつ4期にわたりBankART KAIKOで個展を開催した。作品が売れる、プレスに批評が出る、次の展示に選ばれる、等、どの作家もそれぞれ次につながる成果を得ることができた。

第1期



ユ・ソラ

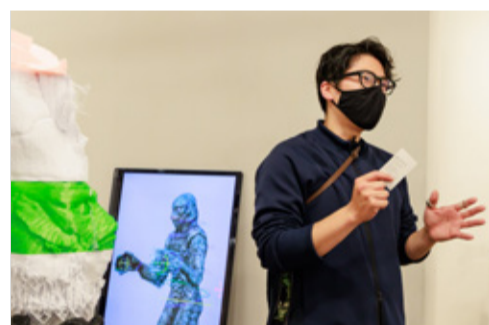
第2期



寺田健人



小野田 藍



熊谷卓哉

第3期



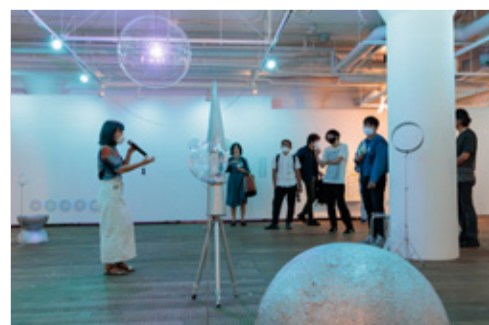
ナカバヤシアリサ



小林 椋



足立篤史



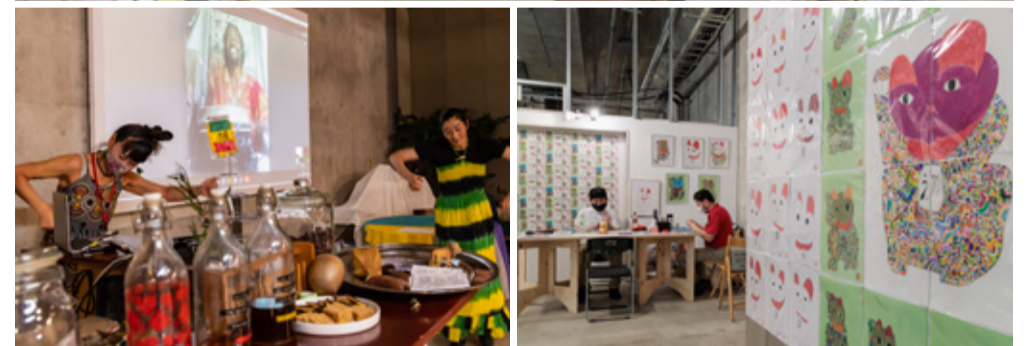
辻 梨絵子

AIR 2021 SUMMER

オープンスタジオ リポート

5/27-29、6/3-5 @ BankART Station

恒例のオープンスタジオは、今年も20組の作家たちが、2ヶ月間ともに制作に励んだその成果を披露した。このところ緊急事態宣言やまん延防止等重点措置などでオープンスタジオも静かに開催せざるをえなかったが、久しぶりに何の制限もなく、会期中に各作家がイベントを企画するなど、元気に開催することができた。どんな状況下でも、作品を制作することは作家にとっては「日常」であり、その作家たちの日常を垣間見ることのできるこのプログラムは、作家にも鑑賞者にも、新しい視点や視野の広がりをもたらすことになるだろう。



編集後記

○2022年3月16日にBankART1929代表だった池田修が急逝した。BankARTのほとんどの事業を牽引してきた大きな船頭が突然に逝ってしまったのだ。とはいえBankARTという大きな船はゆるぎなく進んでいかねばならない。さまざまな人々の協力を得て、通常通りの事業をこなしながらも、書籍『池田修の夢十夜』を刊行し「偲ぶ会」も無事開催できた。この場を借りて関係いただいた方々に深く御礼申し上げます。

○池田は2022年度の事業計画を立てたところで逝ってしまった。当面はその計画を実現化していくのだが、並行して、池田の予定になかった展開もある。BankART KAIKO 前の北仲歴史広場では松本秋則+松本倫子の「Bamboo Paradise」。KITANAKA BRICKの各店舗にも展開している。BankART Stationでは、キング軸に配するアートテーブル公募の審査展と公開審査。いくつかのことを同時進行させながらいつのまにか暑い夏へと突入していた。